

## 言語活動を中核に据えて 無理なく力をつける教科書



津久井 貴之  
(群馬大学)

### 新しいNEW CROWNが目指しているもの—3つの特長

新しいNEW CROWNの改訂の意図を端的に言えば、「言語活動を中核に据えた授業づくりを力強く支えるための改訂」だと考えている。筆者自身の中学校・高校での指導経験も踏まえて言えば、教科書の題材と紙面構成は、授業づくりに大きな影響を与える重要な要素である。教科書「を」教えるのではなく、教科書「で」教えるからこそ、教科書のレッスン構成やその意図は今まで以上に大切な役割を担う。今回の改訂は、まさにこうした理解を前提に、生徒たちのために更なる

授業改善や指導の工夫を求める先生方を後押しするものであると自負している。

単元のゴールの達成に向けて、さまざまな言語活動や学習を一連の学びとしてつなげることを意識して改訂したレッスン構成を、2年 Lesson 5 “Visiting Australia”を例に紹介する。これまでのNEW CROWNのよさを生かしつつ、「単元としてのまとまり」を更に意識したレッスン構成の特長は、以下の3点である。

#### 特長1 「目的や場面、状況」を意識したScene (場面設定) の一貫性：「とびら」からゴールの言語活動まで

##### 《ここがポイント!》

- ① とびらでは、Lesson Previewとして、後に続くPartや単元のゴールとなるGoal Activityの内容を確認でき、学習の見通しを立てることができる。
- ② 単元のゴールとなるGoal Activityに向けて、1つのレッスンは1~3のPartで構成されている。各Partには目的や場面、状況を意識したSceneが置かれている。
- ③ Part 3 Side Storyでは、PartのSceneの裏話や補足情報、あるいは補完的なエピソードを取り上げている。

本書pp.8-9では、2年Lesson 5の紙面とともに各Sceneのリード文や活動のトピックを抜粋して提示した。Sceneは単元の学習のゴールとなる言語活動 (Goal Activity) に向けた一連のストーリー

になっており、それぞれ目的や場面、状況などが明示されているのがわかるだろう。

とびらでは、レッスンの題材内容を想像させるさまざまな写真や発問とともに、Goal Activityの内容が明示され、目標を確認することができる。生徒はどのような学習を行うのかを想像しつつ、ゴールまでの見通しを持って学習を進めることができるだろう。

先日、ある中学校の先生が、授業でおすすめの旅行先を紹介する活動の際に生徒から「先生、これって誰に紹介しているんですか。」と質問されたそうだ。英語を使ってコミュニケーションを行う際、目的や場面、状況がないことに違和感を持つのはむしろ自然なことである。新しいNEW CROWNのまとまりのある単元構成の中で、Sceneの目的や場面、状況などを踏まえた言語活動を行えば、生徒は疑問や違和感を持つことなくスムーズに取り組むことができるだろう。

#### 特長2 2つの「流れ」を意識した紙面構成：指導の流れと、自然な言語学習の流れ

##### 《ここがポイント!》

- ① Lessonの中心となるPartは、Small Talkのやり取りの活動から始まる。
- ② Scene 1では聞く活動を行い、無理なく十分にインプット(聞く)をExerciseにつなげることができる。
- ③ Scene 1から続くScene 2の本文は、Goal Activityで取り組む活動のモデルの一部にもなっている。
- ④ Think about Yourself (話すこと [発表]・[やり取り])で自己表現の機会を確保している。



Partは、左ページ下のような見開きの紙面構成で、指導や活動の手順が先生にも生徒にもわかりやすくなっている。例えば、Part 1の1時間目の指導手順をリストにすると以下ようになるだろう。想像される発問とともに概観する。

① **Small Talk** ペアでのやり取り

Now, I will show you some pictures. Which country do I want to go to? Can you guess?

Which country do you want to go to in winter? Let's talk in pairs.

② **Scene 1** 聞く活動

Look at this Scene 1. Riku is talking with Kate. What are they talking about? Can you guess? A hint? OK. Where is Kate from? Now please listen to Riku and Kate. What are they talking about?

※この後、巻末資料のScene 1のスク립トを見せることもできるだろう。

③ **Check** 新出言語材料 (show+A+B) の導入・説明

I showed you some pictures of the U.K. And in the dialogue, Kate showed Riku some pictures of ... which country? Yes, Australia. Kate showed Riku some pictures of Australia.

どんな意味かな? (スライドなどに英文を示す) ケイトが陸との会話で言っていたセリフです。I will show you some pictures. (ジェスチャーなどで英文の意味を示しながら)

④ **Exercise** 新出言語材料の練習

OK, now let's listen to the dialogue between Hana and Mark this time. (音声を聞く)

Good. Do you know Hana's birthday? Her birthday is February 22. I will give her a towel. I think she needs towels because she plays soccer. How about the other characters? What will you give them for their birthday present? Talk in pairs.

Now, please choose one character, and write a sentence. I will give ... because ...

このように、1ページの紙面が1時間の指導の流れに沿って配置されている。もちろん生徒の実態や興味・関心などに応じてさまざまな展開が考えられるが、紙面を追えば基本的な活動ができるようになっている。活動の手順を先生と生徒で容易に共有することができ、活動の内容や使用する英語に集中して取り組むことができるだろう。

各Partに置かれたScene 1では、新出言語材料が自然な場面で使われている会話や発表を聞く活動を行う。アニメーションや写真などを活用することで、新出言語材料の使用場面や働きについて気づかせたり、大まかに文脈をつかませたりするのに適している。

Scene 1から続くScene 2の本文は、文字で示されている。本文

の場面や文脈を手がかりに、「聞くこと」に加えて「読むこと」でも、新出言語材料の意味や使われている場面、働きなどについて理解を深めていく。Scene 1と2を併せた内容理解の発問も行いながら、生徒は英文を何度も聞いたり、読んだりすることで、十分なインプットを得ることができるだろう。

さらに、十分なインプットの後はThink about Yourselfという自己表現活動が設定されている。自然な言語学習の流れに沿いつつ、生徒の実態に合わせて先生が活動の扱い方を柔軟に変えられるようなシンプルなタスクになっている。Lesson 5 Part 1 Scene 2の「海外から日本に来た旅行者に紹介したい場所はどこですか。」という問いであれば、「(Goal Activityを意識した活動として) 旅行者に伝えるつもりで考えてみよう。」などと指示をして、「I will show you Shima Hot Spring. It's my favorite hot spring.」と話したり、書いたりする活動ができるだろう。

Partの終わりに先生が運用しやすいシンプルな自己表現活動を設定することで予想される効果は次の3点である。

① **アウトプットを通して、再度インプットへの意識が高まる。**

あっ、そうか。こんなときに教科書のこの表現が使えるのか。



うまく書けないな…。本文にある表現が使えるかなあ。読み直してみよう!

② **目的や場面、状況などへの意識付けにつながる。**

海外からの旅行者に紹介したい場所? 日本に来る季節によって、紹介したい場所が変わるかなあ。



③ **身近な生活とのつながりを考えるようになる。**

身近にある建物や場所の愛称…? 「四万ブルー」がそうだ! え〜と、You can see ... many kinds of blue colors ... of the ... lakes in Shima ... We call it ... Shima Blue!



「特長1」で触れたが、「まとまりのある単元構成」はScene 2の本文にも強く反映されている。十分なインプットによって生徒に少しずつインテイクされた英文は、Goal Activityの「複数の詳しい情報を付け加えて、町で訪れてほしい場所や体験してほしいイベントを、旅行者に紹介しよう」という活動でも使用できるように工夫されている。ここで、単元のゴールで予想される生徒のパフォーマンス例(下図)を見てみよう。下線部は本文の表現の一部を活用したものである。

Hello, I'm Takayuki. I will tell you my favorite spot in Gunma.  
What's this? (写真を提示) It looks beautiful, doesn't it? My favorite spot is Shima Onsen, Shima Hot Spring. It takes three hours to go to Shima Onsen by train and bus, but I think it is the best onsen to enjoy hot spring therapy. Also, you can enjoy eating delicious eggs. We call them Onsen Tamago. I love them.  
Come to Shima and enjoy the onsen culture!

**特長3** 言語活動を中核に据えた授業運営を無理なく行うための単元のゴール

**《ここがポイント!》**

LessonはWrite / Speak（書くこと・話すことの発信領域）の言語活動がゴールの場合と、Read（読むことの受容領域）の言語活動がゴールの場合の2種類に分けている。

限られた授業時間の中でもしっかりと言語活動を行ってもらうため、生徒の興味・関心や、単元の題材及び教科書本文のジャンルと言語活動の相性を考慮し、全国各地の先生方のご意見を踏まえて構成を改変した。単元のゴールの言語活動を明確にすることで、言語活動を中核に据えた授業運営を無理なく、しかし着実に行うことができる。

ここまで紹介してきた2年Lesson 5は「話すこと [発表]」領域の言語活動が単元のゴール (Goal Activity) として設定された例である。もちろん、同じ発信領域の「書くこと」の言語活動がゴールとなっている単元も、3学年を通してバランスよく設定されている。例えば、1年Lesson 6の「書くこと」のGoal Activityでは、日本の学校生活を知りたいというケビンからのメールに返信する (本書pp.10-11, 26-27を参照)。SETTINGでは英文を書く目的や場面、状況を確認し、返信する目的を明確にすることができる。Readのタスクでは、モデル文を読み、書かれた内容を表などに整理することで、メールの形式や段落の構成を分析することができる。更に、二次元コードから、ケビンがモデルの英文を書く際の過程が視聴できるため、ライティングのプロセスも学ぶことができる。

次に、「読むこと」の領域の言語活動がゴールの2年Lesson 3を見てみよう (本書pp.15, 28-29を参照)。このGoal Activityでは、記事の概要をとらえることをGoalのタスクとして設定し、「読むこと」の言語活動をしっかりと行う。この場合の「概要」とは、記事の大まかな内容であり、この読み取りができなければそれに応じること (質問すること) も難しくなってしまう。Guideのタスクを段階的な支援として用いながら、「記事の概要のとらえ方」をしっかりと学習できるようにしている。

また、ポストリーディング活動として「考えや意見を伝えよう。」という言語活動を設け、指示文とともに表現例が掲載されている。Read (読むこと) がゴールのLessonには、読んだことを踏まえて書く活動など、取り組みやすい言語活動を設定している。先生方の工夫や判断でアウトプットの言語活動として発展させたり、家庭学習として取り組ませることもできる。

ここまで、改訂のポイントに焦点を当てて説明をしてきたが、最後に新しいNEW CROWNが「変わらず大切にしているポイント」にも触れておきたい。それは題材の深さとこだわりである。このアイデンティティは失うことなく、新しいNEW CROWNの新しいレッスン構成が、生徒の資質・能力を高めるために、多くの先生方の日々の地道な授業改善を後押しする存在となることを強く願っている。

**レッスン構成**  
**(2年 Lesson 5 “Visiting Australia”)**



**とびら**

**単元のゴール(Goal Activity)の提示(話す[発表])**  
複数の詳しい情報を付け加えて、町で訪れてほしい場所や体験してほしいイベントを、海外からの旅行者に紹介しよう。



**Part 3 Side Story**

**ダイアログ(聞く・読む)**

ツアーガイドのベティーと芸術家のバラングさんが話しています。

**Small Talk** 旅行に行ってみたくい国について、ペアで話してみよう。

**Small Talk** 旅行先でしてみたいことについて、ペアで話してみよう。

**Think about Yourself** 海外から日本に来た旅行者に紹介したい場所はどこですか。

**Think about Yourself** 身近にある建物や場所には、どんな愛称がついていますか。

**Part 1**

**Scene 1 [ダイアログ(聞く)]**

陸が、オーストラリアから帰ってきたケイトと話しています。

**Scene 2 [ダイアログ(聞く・読む)]**

ケイトが撮った写真を見ながら、陸が質問しています。

**Part 2**

**Scene 1 [ダイアログ(聞く)]**

陸は、ケイトのおばさんが運営しているオンラインツアーに参加しています。

**Scene 2 [モノログ(聞く・読む)]**

ツアーガイドのベティーが、ウルルについて説明しています。

**Today's Topic**  
Where is a good place to visit in our town?  
町でおすすめの場所は？

**Small Talk Plus**

**(話す[やり取り])**

町でおすすめの場所や旅行に行ってみたくい国、旅行先でしてみたいことについて、ペアで話そう。

**Goal Activity** **SETTING**

ツアーガイドのベティーと一緒に、旅行者に町や地域の魅力を伝える動画を作るようになりました。